



英米文化研究(現代英語文学、サブカルチャー)

[キーワード: 現代英語詩、アイルランド現代文学、サブカルチャー]

准教授 吉田文美

<研究の概要>

現代英語文学のうち、主に英語詩およびアイルランド英語小説を研究対象としている。詩については、ロマン派以降から現代の作品まで広く取り扱うが、W.B. イェイツ以降のアイルランド現代詩を中心とする。小説では、アイルランドを代表する短編小説作家Frank O'Connorの他、Jennifer Johnston (1930~)の小説が中心である。加えて、日英米の映画、ドラマ、アニメなどのサブカルチャー研究にも興味を持っている。

現時点では、以下の2点を研究の柱としている。

(1) 文学作品や映画などでの「戦争」の描写: アイルランドは国家として第1次世界大戦~第2次世界大戦には、参戦しなかったため、現代のアイルランド史においては、両大戦は英国からの独立運動時代の「背景」として扱われることが多い。しかし、実際には、英国の軍隊に志願した多くのアイルランド人が存在し、彼らを題材にした文学作品もある。そのような作品や英国の戦争詩人の作品、文学や映像作品での戦争の描写等を比較検討しながら、「戦争に行くことの意味」がどのように語られてきたかの検証を重ねる。

(2) 現代英語文学および映像作品におけるジェンダー分析: ジェンダー研究の成果を取り入れた文学および映像作品の分析は、意義あるものと考えている。ジェンダーバイアスの解消を意識した作品でさえ、男女の差異が必要以上に強調されていることもある。ジェンダーにより社会が期待する役割に、個人がいかに束縛されているか、ジェンダー・バイアスの再生産に文学や映像作品がいかに関わっているかを明らかにしたい。

<主要研究業績> (MS Pゴシック・12ポイント)

吉田文美(2020年)「ジェニファー・ジョンストンの *Two Moons*—母と娘の葛藤、そして天使の役割—」、『ハイペリオン』66号、徳島大学英語英文学会、23-42

吉田文美(2018年)“Masculinity Denied in Jennifer Johnston’s *How Many Miles to Babylon?*”, *Journal of Irish Studies* 33, IASIL Japan (イアシル・ジャパン: 国際アイルランド文学協会日本支部)、45-53

吉田文美(2015年)「銃後の農村、兵士の憂鬱~Edward Thomasの “As the team’s head-brass”~」、『ハイペリオン』61号、徳島大学英語英文学会、1-25

吉田文美(2000年)「理想と現実の狭間で〈Frank O’Connor〉」、風呂本 武敏編著『近・現代的想像力に見られるアイルランド気質』、溪水社 71-86

吉田文美(1997年)「Medbh McGuckianの詩」、『イェイツ研究』28号、日本イェイツ協会、77-84

吉田文美(1996年)“Women in Jennifer Johnston’s Novels” *The Harp* No.11, IASIL Japan (イアシル・ジャパン: 国際アイルランド文学協会日本支部)、52-56

専門分野: 現代英語詩、アイルランド英語文学

E-mail: yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7124

詳細情報: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60548/profile-ja.html>